

就職編

進路実現に向けて大切なこと

- 1 早く目標を決め、やるべきことを確実にやる→意外と短い卒業までの時間
- 2 遅刻、欠席を無くす →すれば増えるだけ、減らすことはできません
- 3 1年生から成績を上げておく →後から成績は直せない
- 4 いろいろな経験をして、自分のこと、将来のことを語れるようになるろう
(部活動、生徒会活動、ボランティア活動、インターンシップ等)

毎日の努力は必ず自分の力になって戻ってきます→コツコツが結局は近道

I 就職試験の内容

1 公務員

(1) 一次試験 → 教養試験、適性試験、作文試験

① 教養試験 択一式でマークシート方式

一般知識分野 (高校で学ぶ程度の一般知識、社会科学、人文科学、自然科学の各分野)

一般知能分野 (文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈など)

② 適性試験 五肢択一式

速く正確に事務処理を行う能力についての試験

③ 作文試験

日常的なテーマの課題作文、600～1000文字程度

(2) 二次試験 (一次合格者に対して) → 面接試験

※ 国家公務員、地方公務員とも競争率は高い。

2 一般企業

(1) 学科試験

一般常識が中心

基礎基本の重要事項について毎日の授業をしっかり受け、理解する。

(2) 作文試験

「自分について」「私の長所」など身近なこと

「志望の理由」「職業について」など勤労観、職業観に関すること

自分の考えを文章にする練習をしっかりとやっておく。

(3) 面接試験

志望の動機、高校生活、自分の長所、短所などは必ず聞かれる。

面接試験の割合が高まってきている。態度、印象が重視される。

卒業生の受験報告書などで情報を仕入れること。

学校での言葉、態度、作法は面接行為そのものなので、常日頃からきちんとできるように心がけること。

人と違う「自分」をアピールできるように普段から話す練習も必要

(4) 適性検査

知的検査 (事務作業や、機械的作業に向いているか)

職業適性検査 (どんな仕事に向いているか)

性格検査 (職務をはたすにふさわしい性格か)

Ⅱ 受験決定まで（1年次～2年次～3年次の取り組み）

3年生		
●社会人として活躍できるよう、就職内定後も学力を伸ばすとともに、さまざまな行事や活動を通して、社会性や主体的に取り組む姿勢などを高めていきましょう。		
★9月	8月	7月
応募書類の企業受付 (5日から) 就職試験の開始 (16日から) 学科試験・作文・面接・適性検査等	応募先企業の決定と 就職試験直前対策	応募先企業の絞り込み
●応募書類の確認と発送準備 ●応募書類の発送(企業5日より受付) ●面接練習 ●就職試験本番	●企業見学・職場体験 ●応募先の決定 ●履歴書作成・面接練習 ●就職試験対策	●本年度の求人票閲覧 ●応募前職場見学参加 ●インターンシップ参加 ●保護者懇談会 ●具体的な応募先の検討と決定 (保護者ともよく話し合う) ●履歴書の書き方
↑		
3年生 4～6月		
自己分析・企業研究・応募先企業の検討・就職試験対策		
●前年度の求人票等を閲覧し、希望する職種や企業の情報を収集する ●具体的な応募先の検討(保護者ともよく話し合う) ●企業見学、インターンシップ等への参加 ●進路講演 ●福祉のキャリア教育 ●自己分析(強み、弱み、自己PR、学校生活での学んだこと等) ●就職試験対策(一般教養、適性検査等)		
↑		
2年生		
企業の情報を収集し、職種や就業地を絞り込む		
●求人票等を閲覧し、希望する職種や企業の情報を収集する ●学力をさらに伸ばし、学力の定着をはかる ●進路講演 ●福祉のキャリア教育 ●ものメッセ見学 ●就職ガイダンス(マナー・社会や仕事の理解・面接体験等) ●業界・企業説明会(1・2年生対象) ●インターンシップ等への積極的参加		
↑		
1年生		
基礎学力を身に付け、自己理解・働くことについて考える		
●保護者ともよく話し合い、自分のやりたいこと、進む進路を決める ●基礎学力を身に付け、自分の進路にあったコース選択をする ●進路講演 ●福祉のキャリア教育 ●ものメッセ見学 ●職業人インタビュー(予定) ●職業分野別ガイダンス ●インターンシップ等への積極的参加		

1 受験の方法

(1) 学校を通して受験（後の重要事項を遵守のこと）

学校に送られてくる求人票から自分の受験したい企業を選び受験

○7/1より求人票が学校へ ○9/5より書類受付 ○9/16より採用試験開始 ※全国一律

(2) 学校を通さない受験

保護者知人等の斡旋(縁故)によるもの ※担任とよく相談し、進路部へ連絡すること

2 受験から入社までの流れ

(1)求人票・求人情報	①求人票・パンフレット等の資料をよく見て、担任や進路指導部の先生と意見を共有し助言を得る。 ②受験したい企業の求人票に「事前見学可」とあれば、必ず見学をする。
(2)受験企業の決定	①保護者や家族とよく相談をする。 ②最終的には自分が判断し決定する。 ③志望動機等を整理する。 ④学校に保管されている受験報告書で傾向を調べる。 ⑤新聞等をよく読み、時事情報を身につけておく。
(3)「就職用」 調査書作成願の提出	①進路指導部職員室へ7月中旬から下旬に取りに行く。 ②保護者の捺印をもらい担任に提出する。 ※応募書類発送の2週間前までに0提出
(4)就職校内選考委員会	8月上旬予定(年間行事を要確認)
(5)履歴書作成指導 応募書類の作成 面接カード記入 面接練習開始	① 自分で用意するもの 履歴書…全国高等学校統一用紙での履歴書をパソコンにより作成する。 ・志望の動機は特に重要な部分となるため、早めに作成し点検を受けておく。 ・検定や大会の結果等については正確な情報を事前に確認しておく。 ・誤字脱字や入力ミス等十分に気をつける。 ・写真は4月に撮影した個人写真を使う。 ※服装、頭髪に乱れがあるものは使用不可 ②担任が作成するもの 調査書…関係書類の送付期日に余裕をもって担任に依頼
(6)応募書類の送付 9月上旬	①書類送付用の封筒を進路指導部でもらい、宛名を自分で書く。 ②調査書、提出書類を進路指導部よりもらい、履歴書と共に封筒に封入し、郵便局で「簡易書留」で送付する。
(7)就職試験日程の通知	書類送付後、試験日程の通知が学校にあるので、担任を通じて連絡。
(8)忌引願の提出 交通手段等の手配	①就職試験のための移動交通手段、宿泊など、手配を各自で行う。 ②受験のための欠席は忌引扱いとなるので忌引願を提出する
(9)入社試験	
(10)受験報告書の提出	進路指導部に受験報告書用紙をもらい試験内容を記入し提出する
(11)合否の通知 採用内定礼状の発送 入社日の通知	①受験終了後、学校に採否結果の通知があるので担任を通じて連絡 ②内定の通知をもらったらできるだけはやく、採用内定礼状を送付 ※提出書類等の連絡が事業所より直接ある場合もある。

Ⅲ 学校推薦に関する基準

- (1) 必ず保護者の同意を得ていること。
- (2) 学校推薦をするのにふさわしい人物であること。
- (3) 学業成績不振者、理由のない欠席・遅刻・早退が多い生徒は、推薦できない場合がある。
- (4) 学校推薦で就職が内定した場合は、他への就職や進学はできない。
- (5) 一人一社を原則とする。 ※会社の許可を得た場合は、10月1日以降は複数応募可
- (6) 公務員受験希望者は、その結果が判明するまで企業への推薦はできない。
- (7) 卒業の見込みが立たない生徒（7単位以上の欠点を有する者）は推薦できない。

※校内選考委員会について

- (1) 学校推薦に関する委員会
- (2) 構成員

校長、教頭、進路指導部長、進学担当、就職担当、3年学年主任、3年担任